森林レンジャーがゆく（111）

ヒメハサミツノカメムシ

一般には、カメムシは臭いと嫌われています。外敵に襲われるなどの刺激を受けると、強烈な匂いを出し、冬には屋内に大量に侵入することもあるため、屋内では不快害虫として扱われます。この匂いは外敵に対する攻撃であるとともに、周りのカメムシに危険を知らせる信号でもあり、この匂いで周りのカメムシも逃げ出します。しかし、弱い匂いは集合を促す信号となり、越冬に際して沢山のカメムシが集まってくる要因とされています。また、農作物の吸汁もあり、特に果樹などの農作物害虫として扱われることが一般的ですが、サシガメの仲間などは肉食で、アブラムシの天敵として益虫扱いされています。

日本にはカメムシの仲間が１８０種以上生息しており、一部が害虫として扱われますが、多くは人と関わりを持たずに生活しています。一方で形や色、姿にバリエーションがあり、きれいな模様を持つものも多いため、収集する昆虫マニアも多数存在します。

ここで紹介するのは、変わった姿の「ヒメハサミツノカメムシ」です。写真のように肩の部分にツノ状の突起があり、オスはおしりにハサミムシのようなハサミを持っています。また、名前の頭のヒメは「ハサミツノカメムシ」より小型であることを意味しています。特徴をそのまま並列に並べたような名前は、つくづく安易な命名だと思います。このような安易な名前を持つ生物は、あまり人間とかかわりを持たずに林野で人知れずに生息している種だと思っています。

ヒメハサミツノカメムシのハサミは飾りではなく、交尾の際にメスの体を挟み込み、体を固定させるために使うそうです。しかし、肩のトゲの使い道は分かりません。このように色々な装備を備えたカメムシですが、その匂いは試さなかったので全く分かりません。もしかしたら強烈だったかもしれません。

このカメムシはサワシバやクマシデなどのシデ科の高木の樹冠を主な生息場所にして、あまり人目に触れることはないようで、この写真を撮った時以来、目にしていません。次回、再会した時は、ぜひどのような匂いを出すか試してみたいと思っています。（杉野）

ヒメハサミツノカメムシ

森林レンジャーあきる野　市が取り組んでいる「郷土の恵みの森づくり」を進める専門集団。尾根道の補修や景観整備事業等の調査、計画立案等を地域と協働で実施。市内で生息する動植物の調査や、滝・巨木など、地域資源の掘り起こしも行っている。

問合せ　環境政策課環境の森推進係